

2022 年度 日本財団助成事業

「国境を越えて移動する子どもと家族のための相談支援」

『外国につながる家族と子どもへの相談支援オンラインセミナー』

実施報告書

2022 年 3 月

社会福祉法人 日本国際社会事業団

日本財団の助成を受け、2022年6月から2023年2月まで、4テーマ計12回のオンラインセミナーを開催した。

外国につながる家族や子どもに関する相談は、背景事情が分かりにくく、時に言語や文化・習慣の違いなどから聞き取りが十分にできない等の理由から、その評価（アセスメント）や支援が難しいとされがちである。本セミナーは、相談を受けた関係者が、「外国につながるケース」に苦手意識を持つことなく、当事者の置かれた状況を適切に聞き取り、理解し、他の関係機関と連携しながら的確な情報や支援を提供できるようになることを目的としている。今年度は、社会情勢や昨年度のアンケート結果に基づき、4つのテーマを設定した。それぞれのテーマの中で、理論と実践とを合わせて学ぶことができるように組み立てた。参加者が、すでに関わっているケースや、これから関わるであろう外国につながる家族が抱えやすい課題と支援の方向性を具体的にイメージし、実践に役立てていくことができるよう留意した。

## 1. 開催概要

セミナー用ウェブサイト：<https://seminar2022.issj.org/>

テーマ1 難民の定住支援			
	第1回	第2回	第3回
日時	2022年6月25日(土) 10:30～12:00	2022年7月16日(土) 10:30～12:30	2022年7月23日(土) 10:30～12:00
内容	難民支援とソーシャルワーク	難民の適応障害とうつ	難民の子どもたちの学習と課題
講師	葛西 伶氏 (UNHCR 駐日事務所法務部)	鵜川 晃氏(大正大学教授)	矢崎 理恵氏 (社会福祉法人さぼうと21) マリップ・センブ(NPO 法人 PEACE)
申込数	当日参加申し込み:39件 録画視聴申し込み:6件		
テーマ2 多文化・多言語環境にある子どもの育ちを考える			
	第1回	第2回/第3回 ※合同実施	
日時	2022年8月20日(土) 10:30～12:00	2022年9月19日(月・祝) 13:00～16:00	
内容	外国にルーツのある子ども・家族支援の実際	多文化・多言語環境にある子どものことば・発達・関わり方 ～理論編、実践編	
講師	南野 奈津子氏(東洋大学教授)	奥村 安寿子氏 (東京大学 特任研究員)	東谷 知佐子氏 (NPO 法人 HATI JAPAN 代表)
申込数	当日参加申し込み:53件 録画視聴申し込み:7件		

テーマ3 社会的養護下にある外国籍の子どもの支援			
	第1回	第2回	第3回
日時	2022年10月6日(木) 10:30~12:00	2022年10月27日(木) 10:30~12:00	2022年11月25日(金) 17:30~19:00
内容	外国につながる子どもの養子縁組支援	無国籍児童の国籍取得 ～手続きと関係機関との連携	外国籍児童に関するアセスメント(家族関係と家庭環境の調査) ～イギリスの取り組みと実施例
講師	大場 亜衣、榎本 裕子 (ISSJ ソーシャルワーカー)	小田川 綾音氏(弁護士)	Noriko Takahashi 氏 (元 CFAB-ISS イギリス支部 ケースコーディネーター)
申込数	当日参加申し込み:59件 録画視聴申し込み:2件		
テーマ4 国境を越えて移動する子どもの支援			
	第1回	第2回	第3回
日時	2022年12月15日(木) 10:30~12:00	2023年1月19日(木) 10:30~12:00	2023年2月2日(木) 10:30~12:00
内容	子どもたちの実情と直面する課題について	実践編:出生登録と国籍取得手続き(フィリピン)	実践編:大使館領事部の役割と実践(タイ)
講師	小豆澤 史絵氏(弁護士)	セルナ チュア シャーメイン氏(フィリピン大使館領事部 公使・総領事)	アチャラー チャイヤサーン氏(タイ王国大使館領事部参事官)
申込数	当日参加申し込み:23件 録画視聴申し込み:0件		
参加費	3,000円 ※一括申し込みのみ		

## 2. 各テーマの振り返り

### ●テーマ1「難民の定住支援」

ウクライナ避難民の受け入れが官民を挙げて進む中で、「難民(避難民)の定住を支援する」という言葉がよく聞かれるようになったが、「定住」や「定住支援」が具体的に何を意味するのかについての明確な答えはない。テーマ1では、母国を逃れざるを得なかった難民の背景を持つ人々が、新たな地で生活を再建する際に必要となる支援について、3人の講師がそれぞれの視点から講義することを通して、「定住支援」がもつ多様な側面を考え、参加者それぞれの実践に活かせるようになることを目指した。

### ●テーマ2「多文化・多言語環境にある子どもの育ちを考える」

外国につながる子どもたちは、家庭内での文化や言語社会生活上(保育園や学校など)慣れ親しんでいく文化や言語が異なることが少なくない。そういった多文化・多言語環境に

生きる子どもたちの中には、言葉の習得や学習に遅れが見られる場合があり、教育現場や療育の場面で大きな困難に直面している。言語の問題なのか、発達課題なのか、あるいは生活環境や適応の課題なのか、それらすべてを切り離して考えることは難しく、学校の先生をはじめとする関係者が試行錯誤を繰り返している現状がある。テーマ2では、そのような子どもたちを理解し、家族を支えていくために、どのような視点で関わり、働きかけていくことが必要なのかを考える材料を提供できるよう組み立てた。合わせて、参加者から事前に事例を提供いただき、共に考えることで、実践につながる機会となることを目指した。

#### ●テーマ3 「社会的養護下にある外国籍の子どもの支援」

2020年に実施された厚生労働省の調査<sup>1</sup>によると、全国の約4割の児童福祉施設に外国籍児童が入所していることが明らかになった。社会的擁護下にある外国につながる子どもたちへの支援の必要性は高まっているものの、実際にどのような支援が必要とされており、どのように支援ができるのかという具体的な点については、そのノウハウや経験の蓄積がないために、対応は各児童福祉施設や管轄児童相談所の職員にゆだねられている実情がある。3回の講義を通して、社会的擁護下にある外国籍の子どもが抱えやすい課題やそれらにどのように対応できる可能性があるのかを周知し、これまでの実践や海外の事例を発信することで、関係者が課題解決の道筋を具体的に思い描き、動き出せるようになることを目指した。

#### ●テーマ4 「国境を越えて移動する子どもの支援」

外国につながる子どもたちの支援に際しては、本国の大使館等との連携が不可欠となる。しかし、子どもと関わる支援者にとって、大使館を含め本国情報へアクセスすることは容易ではない。テーマ4では、国境を越えて移動する子どもたちが抱える課題の実情を概観した上で、ISSJが支援を実践する中で連携をしてきた2か国の大使館職員を招き、それぞれの国での具体的な手続き方法等につて、より実践的に学ぶ機会を提供した。

### 3. 考察

#### 1) 外国につながる子どもや家族関わる支援者の孤立と困り感の把握

アンケートの回答内容からは、外国につながる子どもや家族の支援にすでに携わっている参加者の多くが、それぞれの現場で寄せられる相談への対応や関わり方そのものに迷いや悩みを抱えながらも、目の前にいる当事者のため、そして、「子どもの最善の利益」の

---

<sup>1</sup> 厚生労働省 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等における外国籍等の子ども・保護者への対応等に関する調査研究報告書」2021年3月、みずほ情報総研株式会社

ために利用可能な資源を活用するべく孤軍奮闘している現状が見て取れる。同時に、これから外国につながる家族の支援に関わる可能性がある参加者は、その複雑さや難解さ、身近に実践例がないことから、どのように動き始めて良いのかわからない、といった不安を抱えていることがわかる。

アンケートの中では、自由記述欄への回答が多く、記載内容も詳細に及んでいただけでなく、選択項目でも「その他」を選び具体的に記載される方が多く見られた。参加者自身が抱えているケースの悩みが深く、かつ、それらを相談・共有できる場が少ないことを意味しているようにも考えられる。ISSJでの支援だけではない、現場の悩み感がリアルに伝わってくるものであった。

## 2) 実践共有の必要性

今後取り上げてほしい内容・テーマとしては、実践例やグッドプラクティスの共有をしてほしいという回答がどのテーマにおいても複数挙げられた。外国につながる子どもや家族の支援では、移住に伴う特有の課題と日本人と同様の生活課題が組み合わせられ、その組み合わせが移動の背景や文化的背景、在留資格などによって極めて多様になるため、全てが同じ方法で解決に至るわけではない。したがって、実践を積み重ね、相違を見極めながらノウハウを蓄積していくことが重要となるが、一人、あるいは一つの機関のみで蓄積できる経験には限りがある。参加者にとってもセミナー内で共有された事例が自身の関わるケースとぴったりと重なり合うことは少ないと思われるが、それでもなお事例共有が求められる背景には、支援者自身の孤立や疲弊が関係しているように思われる。最新の情報や知識の獲得もさることながら、悩みや不安を相談し学び合える場が求められていることの現れだと考えられる。セミナー実施を通して、支援者同士及び専門家との繋がりをより一層作っていくことができるよう、検討していく必要がある。

## 3) 領域横断的なニーズ

今年度の全12回のセミナーにおいては、外国につながる子どもと家族の支援ニーズ、および想定される支援者が必要とする情報を考えてテーマを設定し、それぞれ2~3回に分けて講義を行なった。テーマは難民から社会的養護、心理、無国籍、出身別の対応方法など広範に及び、その分散逸的となり、網羅的な内容にできなかったことは否めない。逆に考えれば、それだけ外国籍家族に関わる課題は領域横断的で、一つの分野の体験や知識だけでは太刀打ちできない難しさが見て取れる。生活課題全体に関わる支援が必要になるのであれば、人が生きる上で生じる課題全般を網羅する必要がある、相互の関連性もある。外国人の支援であるからと言ってニーズが特定の分野に限られるわけではない。その上、言語や文化の課題が重なるので、一層の難しさがある。これらの課題をどのように整理して提示していくかは、今後の検討課題になるだろう。

各テーマの中でそれぞれ1名から2名はISSJのオンラインセミナーでは初めての講演を依頼した講師となった。それは、現在の社会情勢や参加者ニーズに応えたセミナーを組み立てるために、これまでのISSJの支援実践の中で培ってきた専門家との繋がりを活かすものであり、参加者に対しては、より多様な視点やより実践的な内容を提供することができたと考えている。だが、多様なニーズに応えることができた一方で、セミナー全体としてはその対象者の焦点がぼやけてしまった印象があり、各テーマの申込者の属性が様々であったことがそれを表している。当然、多職種の参加者が共に学ぶことで、それぞれの視点を知り、連携できるようになるという利点もあるが、運営側のジレンマとしては、専門性やベースとなる知識、経験値が異なるために、講義内容をどこに合わせるのかという点で難しさが生じる。場合によっては、誰にとっても消化不良となってしまう危険性も孕んでいる。

セミナー実施を通して、外国につながる子どもや家族の存在とその課題について広く知ってもらい、支援のすそ野をひろげていくことを目指すのか、すでに支援に携わっている人たちのスキルアップや専門家との繋がり構築を目指すのか、それらを明確に打ち出し、戦略的な広報をしていくことが必要となる。社会的な認知を高め、理解する人が増えることで、より円滑な支援へとつながるため、これらは両輪であるとも言えるが、双方にとって有益なものを作っていくためには、ある程度の切り分けが不可欠であったと考える。

また、きわめて具体的な制度や手続きについての情報を得たいというニーズもある一方で、全体としては、それらの個別具体的な内容以上に、外国につながる子どもや家族との関わり方や関係の築き方、心構えといった、より根源的な部分での悩みや迷いを抱えている支援者が多いことが伺える。確固たる答えのない問いに対して、このような研修がどのような役割を果たすことができるのか、引き続き考えていく必要がある。

《アンケート結果詳細》

●テーマ1「難民の定住支援」

1-1「難民支援とソーシャルワーク」

1-1-1. 難民の背景のある人（難民、難民申請者、避難民など）への支援をしている、または今後支援する可能性がありますか

はい	11
いいえ	5

1-1-2. 「はい」の場合、どのような相談を受けたことがありますか？

経済的困窮、住居の確保	8
子どもの発達・教育	8
難民申請、在留資格	6
妊娠相談・DV・離婚など母子女性相談	5
就労、保育園	4
メンタル・ヘルス	4
帰化・国籍・家族呼び寄せ	3

その他の回答：

- ・生活相談の窓口として
- ・高等教育への進学の際の奨学金制度など経済的な支援制度について

1-1-3. 難民の背景のある人へ支援を行う際、難しいと感じるのはどのようなことですか？  
難民の背景のある人に関する相談を受けたことがない場合は、どのようなことが難しいだろうと思いますか？

言語、コミュニケーション	11
当事者との関係性の構築	11
在留資格・入管法・国籍等の法的知識	10
当事者を取り巻くコミュニティや支援者との関係の構築	10
当事者の母国の文化や価値がわからない	5

その他の回答：

- ・通常の外国人支援と違うところ、どこまで支援をするべきか
- ・難民支援に関する知識や情報量の違い、又は支援の範囲・定義がすべての人にとって同一ではないという理解が欠けていることを踏まえた上で、支援者同士のコミュニケーションが円滑にできない場合が多く見られる。

・現場で働いているわけではないこと、力量としてもどのくらい関われるのかわからないこと、権利侵害をしてしまわないか気になるなかで、信頼関係を築くのはとても難しいと感じることがあります。

#### 1-1-4. 難民の背景のある人への相談支援では、どのようなスキルが必要だと考えますか

利用可能な社会資源や制度に関する知識	16
当事者の文化的・宗教的背景や生活状況を理解する力	15
関係機関との連携、ネットワーキング	15
当事者とのコミュニケーションスキル	13

#### その他の回答（1件）

・支援者の育成、レベル向上

#### 1-1-5. コメント（抜粋）

・難民申請認定制度が機能していない日本において、やはり他職種連携、横のネットワークを築くことによって、一人ひとりできることを考えていく必要があると思いました。また「支援者アクターのなかでソーシャルワーカーが中心にいた」というのは、私もアメリカで経験したことです。様々な分野のソーシャルワーカーの方々かわかりを深めるために、働きかけをはじめています。

・ウクライナ避難民受け入れの経験が、日本政府の難民に関する取り組みの好転につながることを期待しつつ、コミュニティでできることを探したいと思います。

・自治体の国際交流協会でも小中学生の日本語支援ボランティアをしています。就学援助や生活保護の申請が必要なご家庭も多く、学校ではその辺り把握できていないので、結局ボランティアが学校や自治体に働きかける形になってしまいます。学校との関係も微妙です。知識もなく、迅速な対応ができないため、紹介された各国のように最初にケースワーカーが入ってくださり、一緒に活動できると本当にいいと思いました。就学してからの日本語支援も大切ですが、多くの子供たちにいじめの問題を抱えることから、就学前に学校に慣れるプログラムは本当に必要だと思います。日本でも地域によって取り組み方が違うので、ぜひ全国でできるような国としての枠組みができるといいなと希望しています。難民の申請について知らなかったことが多かったのでとても勉強になりました。

## 1-2 「難民の適応障害とうつ」

1-2-1. 難民の背景のある人（難民、難民申請者、避難民など）への支援をしている、または今後支援する可能性がありますか

はい	5
いいえ	4



1-2-2. 「はい」の場合、難民の背景のある人との関わりを通して、メンタル面での課題があると感じるがありますか。（回答数：5件）

はい	4
いいえ	1

その他の回答：

- ・実際に直接相談を受けるというよりは、間接的に相談され課題を感じます。

1-2-3. どのようなところからメンタル面での課題がある／ないと察知することが多いですか。

眠れない、起きれない、食べられないといった症状の訴えがある	5
気分の落ち込みが激しい	3
話す内容の整合性が取れないことが多い	3
過去にメンタルクリニックや精神科受診歴があると聞いた	1
体調不良で医療機関を受診したものの、身体的な問題は特に見つからないことが続いている	1

その他の回答：

- ・親の精神的不安定な状態が、こどもに影響し、同じように不眠や登校しないなどの状況になっている
- ・視線や話し方、表情、動作、衣服、持ち物、生活実態

1-2-4. 医療機関につなげるときに、どういう難しさがありますか。または過去に障壁になったことはありますか？（回答数：9件）

言語	8
費用	6
難民や外国人に理解のある病院について情報がない	6
保険証がない	2
本人の拒否感	2

その他の回答：

- ・そういった専門医が少ないし、あっても予約がとりにくい
- ・こちらが医療機関リストをつくるつもりで動こうと思いました。
- ・医療機関による正当な理由のない受診拒否

1-2-5. コメント（抜粋）

- ・私が20年くらい前に移民難民のメンタルヘルスについて勉強をしていたときから、移民難民は増え続けて経験値もあがり、理論化や対処法もより進んでいるのかと思いきや、

あまり状況が変わっていないことについてはやや疑問に思いました。社会学やソーシャルワークとしては、社会の側の受け止めや障壁、対応への変化を促していけたらと強く思いました。

・難民・移民のスピリチュアルヘルスについて、当事者、現場のワーカーや医療従事者がどのように考えているのか

・最初の受け入れの際に医療機関や支援機関の情報を提供すること、医療機関につなげる際、母国ではどうか尋ねること、などは本人のエンパワメントにつながり、良いと思いました。人によって経験したことが違うので、丁寧な支援に関する講義は勉強になる。

### 1-3 「難民の子どもの学習と課題」

1-3-1. 難民の背景のある子ども（難民、難民申請者、避難民などの1.5世、2世）との関わりがありますか、または今後支援等で関わる可能性がありますか。

はい	2
いいえ	1
関わる可能性がある	7

1-3-2. 「はい」の場合、どのような場面での関わりがありますか。あるいは、どのような場面で関わる予定ですか。

学習支援（教科）	2
イベント、地域活動	2
日本語教室	1
生活支援	1

その他の回答：

・相談窓口（学校・日本語教室・学習支援現場等からの照会や依頼）を受けた生活相談。

1-3-3. 「はい」の場合、子どもたちとの関わりの中で、難しいと感じるのはどんなことですか。

将来像を描きにくい、ロールモデルがない	3
日本語理解の遅れ	1
難民としての背景がわからない	1
学習の遅れ	1
コミュニケーション	0
家族関係の不安定さ、親子間のコミュニケーション不全	0

その他の回答：

・来日年齢と教育制度のなかでの就学年齢があわない、制度上対応が難しい

1-3-4. 「はい」の場合、保護者との関わりの中で難しいと感じるのはどんなことですか。

教育への関心、教育観	2
保護者との関わりはない	1
日本語力	1
日本の学校文化や教育制度に関する知識不足	1
子どもへの過度な期待、プレッシャー	0
難民としての背景がわからない	0

その他の回答：

- ・親の精神的状況が子どもに影響を及ぼし学習がすすまない

1-3-5. 「関わる可能性がある」場合、子どもや保護者と関わるにあたり、不安に感じていることは何ですか。

子ども、保護者とのコミュニケーションが取れるか	5
どの程度の関わりを持つのが望ましいか	4
学校との連携ができるか	4
適切な情報提供ができるか	3
地域に資産がない（子ども向けの学習教室や日本語教室など）	3
難民としての背景がわからない	0

その他の回答：

- ・円滑な支援のため、個人的なことをどこまで聞いても良いのか、知っておくべきか。

1-3-6. コメント（抜粋）

・当事者の話を聞くときに、かかわった支援者、支援団体の方も一緒であると理解がしやすいと感じた。

・「ありのまま」でいられる社会をつくるのは大人の責任ですから、学校の先生や地域の特に大人たちの意識をまず変えていけたらいいなと改めて思いました。

・こういった難民関係のセミナーは少ないように思うので、引き続き開催して頂ければと思います。皆さんのお話から大変なこともある（あった）とのことですが、明るく、力強くお話をされているのを拝聴し、自分自身がかかわっている活動（学習支援等）への参考になりました

・私がかかわった方々は難民ではないけれど、やはりアイデンティティーの問題やボランティアの役割のことなど、特にお家で何語で親子がコミュニケーションを取ればいいのかについては、いつも悩んでおりました。

## ●テーマ2 「多文化・多言語環境にある子どもの育ちを考える」

### 2-1 「外国にルーツのある子ども・家族支援の実際」

2-1-1. 外国につながる子どもとその家族との関りがありますか。または、これから関わる可能性がありますか。

関わりがある	13
関わる可能性がある	2
関わりはない	0

2-1-2. 「関わりがある」「関わる可能性がある」の場合、どのような場面での関わりですか。

日本語教室／学習支援教室	8
外国人相談窓口（親御さん等からの相談）	6
地域の活動やイベント	5
学校／保育園／幼稚	4
発達相談や療育センター	1

その他の回答：

- ・顧客とその家族

2-1-3. 「関りがある」「関わる可能性がある」の場合、何歳くらいのお子さんとの関わりですか。

0～2歳	3
3～6歳（小学校入学前）	8
小学校低学年（7～9歳）	13
小学校高学年（10～12歳）	14
中学生	11
高校生世代	8

2-1-4. 「関わりがある」場合、子どもたちとの関わりの中で難しいと感じるのはどのようなことですか。

学習の遅れ	9
発達に課題があるのか、それ以外の要因かわからない	9
家族とのコミュニケーション	9
日本語習得の遅れ	8
生活環境の不安定さ、生活環境がわからない	6
日本社会への不適應を起こしている	3

その他の回答：

- ・家族相談の場合、子ども本人へのアプローチの機会をつくるのが難しい
- ・週末の日本語教室に毎週来る子たちはできる子、やる気がある子たち。もっとサポートが必要と思われる子たちのほうが時々しか来ない。

2-1-5. 「関わる可能性がある」「関りはない」場合、子どもや家族と関わるにあたり、不安に感じていることは何ですか。

適切な働きかけ、関りができるか	9
保護者とコミュニケーションが取れるか	5
保育園／幼稚園／小学校等との連携ができるか	4
家族の母国の文化や価値がわからない	2
子どもとコミュニケーションが取れるか	1

2-1-6. 外国につながる子どもとの関わりにおいて、難しさや不安がなぜ生じていると考えますか。今の社会や体制、関係する制度で不足していることや必要なことなど、自由にお書きください。（抜粋）

・教育現場の関心が通訳や日本語力に偏り家庭や生育環境にあまり目が向いていないこと、保護者が教育支援機関に関わり利用する上でのきっかけとなる案内が不十分。特に、外国につながる保護者への支援体制が限られていて、保護者が孤立していることを実感しています。また、支援側も多文化環境で発達する子どもに関する知識や支援ノウハウが限られていて、対応が難しいことも多いです。日本生まれ日本育ちの子どもへの支援も必要になってきています。

・地域に住む日本人との交流の機会が少ない為、相互理解が進まないことが、この事業全体の難しさにつながっていると思います。個別の支援と並行して、日本人側に多文化理解教育や他国にルーツを持つ方々との交流の機会をもっと設けるべきだと思います。

・（外国人散在地域では特に）行政に多文化コーディネーター的な立場のポジション自体がなく、行政、企業、学校と、直接関わる外国籍住民との関係調整が、うまくいっていないように見える点。また、学校、特に高校での日本語指導の態勢が整っていない点。公教育の公平性の観点からも、早期に解決してほしいと県の国際課にも要望しているが、やはり、人数が少ないことで、後回しにされている。子どもの母語での発達検査、相談は必要。子どもの発達検査などは、文科省の責任で、専門家がオンラインなどでもできるように、地元の小児発達の専門医と連携して早急にやった方がいい。子どもに限らず、医療通訳がもっと必要。

・子どもや家族を、支援するためのワンストップ支援窓口が無いことが問題だと思います。学校（先生）は社会的には閉じた環境で問題を解決しようとする傾向があると思いま

す。地域社会のリソースと連携する多文化共生ソーシャルワーカーを通じて、多面的な支援を行う体制が必要です。

・私が活動している地域は比較的支援体制が整っていると感じますが、時間とエネルギーもかかるため、外国につながる子どもを肯定的に受け、あたたかく見守ったり、本人のもっている力を信じるといった気持ちの余裕がないまま接するような場合は、支援体制が整っていてもうまくいかないと感じています。

・日本の教育システムや進路の難易度について、どこまで保護者や本人に説明したり、介入したりして良いものか悩む。国籍や日本語能力で進路や就職が限定されてしまうのは仕方ないこと…？

・学校にせつかく日本語指導教員がいても専門家ではないため体系的な日本語教育はできていないことが多い。絶対数が少なくても、日本語支援が公的にできる体制づくりはできないものか？

・外国籍だからと地域の日本語教室にいらっしゃるが、本人はがんばっているのに言語習得や学習がかなりゆっくりな印象を受ける場合もある。発達検査をすすめたくても、病院に行かなければならない等、特に病気や障害に対するスティグマがある方にとってはハードルが高い。各種検査等をもっと気軽に受けることはできないのか？

・教育に関わる方々の外国につながる子どもに対する理解や関心が不足しているように感じています。今後ますます移住者が増える前に先生方に研修などの機会が必要なのではないかと思います。

・母語教育支援と日本語教育支援が不足していると感じます。また、行政・教育側が日本語教育支援が必要な子どもたちの人数や情報をきっちりと把握し、支援に結び付ける体制ができていないと感じています。

・その方の母国の文化や価値をまず、支援者である自身が知るという個人の課題感と教育機関と福祉など他分野との連携が難しいという構造的なものも要因であると思います

・家族は自分自身の日本語習得を大切だと思っていないのに、子どもたちの日本語習得を学校に丸投げしている。

・外国にルーツがある人やその家族の声を聞く場所が少ないこと、解決策ばかりが先行して問題自体へのアプローチが足りないことだと思います。LINEを使った相談サービスを企業さんと一緒に始めてみようと思っています。

## 2-2「多文化・多言語環境にある子どものことば・発達・関わり方～理論編／実践編～」

2-2-1. 発達や養育環境に課題があると感じる外国につながる子どもとその家族に関わったことがありますか。または、これから関わる可能性がありますか。

関わったことがある	15
関わる可能性がある	1
関わったことはない	1

2-2-2. 「関わったことがある」「関わる可能性がある」の場合、どのような場面での関わりですか

日本語教室／学習支援教室	7
学校／保育園／幼稚園	6
発達相談や療育センター	5
外国人相談窓口（親御さん等からの相談）	4
地域の活動やイベント	0

その他の回答：

- ・ 妊娠期面接
- ・ 養育相談、虐待の事例

2-2-3. 「関わったことがある」場合、子どもや保護者にアプローチするにあたり、どのようなところに難しさを感じましたか。

保護者との認識の違い（保護者は発達課題と捉えていない、など）	12
子ども、保護者とのコミュニケーション（言語の壁）	10
文化の違いなのか個人の特性なのかがわからない	9
子どもや家族の生活や成育歴全般を捉えることが難しい	9
生活環境に課題があるように思われるが、介入できない（ネグレクトのようである、など）	8
関係者間での情報共有が難しい（個人情報の観点など）	8
保護者が保育園や学校に期待するものと、実際の機能が異なる（保護者はしつけを期待し、学校では家庭でのしつけを期待する、など）	3
相談できる場所がなく、どうしてよいかわからない	1

その他の回答：

- ・ 「日本で教育を受けさせてくせにせつかく呼び寄せたのに、将来に傷をつけてしまう」「日本語さえ覚えれば問題ない」など、「他の日本人と同じがいい」ということで日本の特別支援教育を避けがちなケースが多い時。
- ・ お子さんが、問題行動のようなこと、反抗的、粗暴になってしまう時、さらに厳しい躾や暴力などで制止すること。
- ・ 子どもの育ち方に対して、子ども自身に理由があるという考え方。

2-2-4. 「関わったことがある」場合、子どもや保護者と関わる中で、他職種や他関係者と連携することはありますか。はいの場合は具体的にどのような連携が可能であったかを、いいえの場合はどうして連携しなかった／できなかったかをおしえてください。

はい	2
いいえ	1

「はい」の具体例（抜粋）

- ・ 小学校や子ども園等への入学・入園手続き時に、通訳や情報共有のために教育機関・発達支援団体・行政と連絡を取り合うことができ、学校や園での様子から今後の支援について検討することができた。
- ・ 保育園での発達支援
- ・ 学校通訳者や学校での日本語学級の担当の先生
- ・ 発達相談センターや医療機関
- ・ 保護者の希望でが小学校の校長先生に事情を説明するために連絡を入れた
- ・ 教員、教育委員会相談係、日本語指導員、スクールカウンセラー、支援員
- ・ 教育委員会、児童相談所、行政（福祉、子ども関係）、病院、特別支援学校
- ・ 経済的な困難を抱えるご家庭で、ご本人と一緒に市役所や社会福祉協議会に相談して受けられる福祉サービスにつながりました。障がいのある子の場合は、相談支援専門員さんに場を設定してもらって学校や保護者と連携会議を行いました。

「いいえ」の理由

- ・ 子どもや保護者との連絡は全て学校の管理職を通してになり、子ども自身の情報も学校からは隠されがちのため。
- ・ 直接学校に問い合わせたり、支援者会議などを設ける体制がなかったため、間接的な情報しか得られなかった。

2-2-5. 本日の2つの事例検討を受けて、感じたことや考えたことをご自由にお書きください。（抜粋）

- ・ ことばと発達について、安易に判断できないということがわかりました。
- ・ 制度上の課題把握や発達への視点などを整理し、理解を深めることができました。
- ・ みなさん、同じような悩みをお持ちなのだと、共感しましたし、先生方のお話で、自分のできる事は何かの取り掛かりのところができてきたように思いました。
- ・ 支援を受けることがメリットと感じられるような情報提供のあり方が重要
- ・ それでも日本で生きていかなければならないという子ども達に思いをはせました。教育制度がまだまだ整っていないと実感します。子ども一人一人を大切にしたい、インクルーシブな教育が早く実現してほしいです。
- ・ 事例検討での先生方の質問から、次回どの様なことを聞き取ると良いのかが学べました。まずはしっかりと情報を整理して、お子さんやご家族を取り囲む全体をしっかりと見立てていくことが大切だと感じました。木を見て森を見て再度木を見る、そして、悩むかなあ。悩みながらも寄り添って進みます。
- ・ 就学相談等の際に感じる事として、児童に発達の遅れが感じられる場合、言語環境によるものか、特性の問題なのかの二択で論じられることが多いように思います。しかし、



お子さんの発達経過を踏まえ、どの段階のサポートが不足していて、そのためにどのようなサポートが必要なのかといった観点から必要な支援を見出すという視点をもって、成育歴を聞き取ったり相談を受けることが重要という理解を、関係者で共有することから始めることが必要だと改めて感じました。成育歴の聞き取りが不十分に感じられる場面もあると思いますが、こういった情報が不足しているのか、そのことを知ることがなぜ重要なのかと言ったことの理解を共有することを大切にするこゝで、関係者の連携も深まっていき、他のケースにも活かされるように思いました。

・これまで外国人支援というフィールドで、単純に言語の違いによる困難への支援を行ってきたが、今後外国にルーツをもつ子どもが増えていく中で、子どもの発達についてや家庭環境についても理解しておくことが必要だと感じた。また、連携できる機関をつくり、体制を整えたうえで、私達はあくまでも子ども本人や家族の困りごとに対して支援をする立場であり、必要以上の介入や決定をする立場ではないということも肝に銘じておくべきだと感じた。

・親御さんに寄り添う支援はとても大切ですが、子どもさん自身の思いや権利を中心とした支援の立ち位置も忘れないようにしたいです。

・現場で悩んでいる先生方もいるので、制度が現状に追い付くことを期待したいです。お子さんの「いま」がこれまでのどのような経験（過去）の積み重ねでできたものなのか、今だけでなく過去についてもどれだけ情報収集できるかで支援の質が変わってくるのだと思いました。一般的にどのような発達過程をたどるのか、対象のお子さんにはどのような発達過程をたどってきたのか、その両方を把握することが支援の糸口を見つけることにつながると大切な学びを得ました。

・子供と保護者を中心に、学校、教育委員会、支援者団体が同じ目標を共有し協力して支援する体制作りが重要であることを再認識しました。細かな情報（過去も含めて）を聞き取ることが大切だということが実感できた。ただ、プライバシーに踏み込むことに躊躇するし、言語的な支援と言葉の選び方をしっかりしないといけないという点もあわせて感じた。

## ●テーマ3 「社会的養護下にある外国籍の子どもの支援」

### 3-1 「外国につながる子どもの養子縁組支援について」

3-1-1. 外国につながる子どもの養子縁組への支援をしている、または今後支援する可能性がありますか？

はい	13
いいえ	4

3-1-2. 外国につながる子どもの養子縁組支援を行う際、難しいと感じるのはどのようなことですか？ 相談を受けたことがない場合は、どのようなことが難しいだろうと思いますか？

在留資格や国籍等の法的側面の知識	13
産みの親や子どもの本国発行の書類集め	13
生みの親や子どもに関連する大使館とのやりとり	13
外国にルーツのある産みの親との関係性の構築	13
外国にルーツのある子どもの背景を理解できる養親候補者を見つけること	13
子どものルーツ探しに対する支援	13

その他の回答：

- ・大使館とのやりとり
- ・言語の行き違いの少ないやりとりができればと思いますがどのように実践するとよいか

3-1-3. 外国にルーツのある子どもの養子縁組に関して、どのような支援が必要だと考えますか？

大使館など関係機関とのやりとりの支援	14
委託後に利用可能な社会資源や制度に関する情報支援	14
外国籍の産みの親に対する養子縁組制度等に関する説明支援	13
養子や養親について該当する国の法律や制度に関する情報支援	13
養子の国籍手続きや国籍取得に関する支援	13
委託後の子どもの適応やルーツ支援に関するノウハウ支援	13
外国にルーツのある子どもの養子縁組手続きに関する研修	13

3-1-4. コメント

・実際にご苦労されながら支援されている ISSJ さんのノウハウを教えていただいたことが、大変ありがたかったですし、ご相談できる先があることがとても心強いです。児相も民間あっせん団体も、外国籍の方の支援をする可能性があるのも、今後もセミナーなど勉強の機会を設けていただきたいと思います。

### 3-2 「無国籍児童の国籍取得 ～手続きと関係機関との連携」

3-2-1. 社会的養護下にある外国につながる子どもの国籍取得支援をしている、または今後支援する可能性がありますか？

はい	10
いいえ	1

3-2-2. 国籍取得支援を行う際、難しいと感じるのはどのようなことですか？ 相談を受けたことがない場合は、どのようなことが難しいだろうと思いますか？

国籍、在留資格、戸籍などに関する知識	10
対象となる本国の法や制度に関する知識	9
大使館など外国の関係機関とのやりとり	8
保護者や当事者とのやりとり	8
国籍取得等にかかる費用負担	6
相談先（弁護士など）を見つけること	5

3-2-3. 国籍取得支援に関して、どのような支援が必要だと考えますか？

大使館など外国の関係機関との橋渡し・仲介	
国籍問題に詳しい弁護士など専門家の助言	
当事者や保護者との連絡調整や情報収集	
国籍取得の方法などの情報（研修やホームページなど）	
国籍取得支援に関する相談窓口	
各国法のデータベース	

その他の回答：

- ・当事者が相談しやすい窓口の設置、環境づくり

3-2-4. コメント

・こういったケースの支援の経験はありませんが、これから受ける場合に備え、手続き等に関する知識や注意すべき点などをわかりやすく学ぶことができました。ありがとうございました。

・妊娠期面接に関わっていますが、夫が日本人で日本で生活していく夫婦だと妻の本国への出生届を重視していない方も多感じています。今日の講義を聞いて、将来的に何があるか分からないことや子供の選択肢を狭めないために、本国の出生届について情報提供していきたいと思いました。

・具体的な事例で対応を教えてもらえると、ケースは個々に違っても、動き方や、注目すべきポイントが頭に入りやすいので、事例を中心とした研修の機会が多くあると、とても聞きたいと思います

・今回のテーマを学校関係者等が周知できるといいなと思います。身近な大人が問題意識がもてるいいなと思います。

### 3-3「外国籍児童に関するアセスメント（家族関係と家庭環境の調査）～イギリスの取り組みと実施例」

3-3-1. 社会的養護下にある外国籍の子どもについて、子どもの本国でのアセスメントを実施したことがある、または今後実施する可能性がありますか？

はい	2
いいえ	6

3-3-2. 「はい」の場合、どのように実施しましたか、もしくは実施予定ですか？

- ・本国にいる子どもの家族や親族に対して、直接ヒアリングを行う。
- ・ISSJなど国内の支援機関にアセスメントを依頼をする。

3-3-3. 外国籍の子どもと家族のアセスメントについて、難しいと感じるのはどのようなことですか？ 相談を受けたことがない場合は、どのようなことが難しいだろうと思いますか？

子どもの本国への帰国支援（大使館等とのやりとりなど）	7
子どもの保護者や本国に住む親族とのやりとり	6
本国の児童福祉機関に関する情報入手	5
アセスメントにかかる費用負担	5
外国にルーツのある子どもや家族の家庭調査やアセスメントの手法	4

その他の回答：

- ・外国籍の方の受診をする際の情報収集

3-3-4. 社会的養護下にある外国籍の子どもに関する家族関係と家庭環境の調査・アセスメントに関して、どのようなサポートがあることが望ましいと考えますか？

当事者や保護者、本国の親族との連絡調整や情報収集	
大使館や本国の児童福祉機関との橋渡し・仲介	
本国の児童福祉の制度や資源に関する情報提供	
アセスメント実施のノウハウに関する情報提供（研修やホームページ）	

その他の回答：

- ・メンタルヘルスに関する受診方法の情報提供

## ●テーマ4 「国境を越えて移動する子どもの支援」

### 4-1 「子どもたちの実情と直面する課題について」

4-1-1. 社会的養護下にある外国籍の子どもや退所後の子ども、若者の支援に直接関わっていますか？

はい	5
いいえ	6

4-1-2. 「はい」の場合、社会的養護下にある外国籍の子どもや退所後の若者の支援において難しいと感じるのはどのようなことですか？

国籍取得や進学等にかかる費用負担	6
在留資格や国籍取得の支援	3
子どもや子どもの保護者の文化的背景に関する理解	3
子どもや家族の支援方法に関する全般的な情報不足	3
退所後に外国につながる若者に対する支援継続	3
子どもの保護者や本国に住む親族とのやりとり	1

4-1-3. 社会的養護下にある外国籍の子どもや退所した後の若者についてどのようなサポートがあることが望ましいと考えますか？

弁護士などの専門家によるアドバイス	
職員向けに支援方法等に関する情報提供の機会（研修やホームページ）	
当事者や保護者、本国の親族、本国の行政との連絡調整や情報収集	
子どもや若者が退所した後に相談できる場所・支援に関する情報	

その他の回答：

- ・言語サポート
- ・退所後の方からの住居支援に関しての住まい・保証人のサポートの仕組みがわかりやすくできる

### 4-2 「実践編：出生登録と国籍取得手続き（フィリピン）」

4-2-1. フィリピンにルーツのある子どもや家族の支援や相談に関わったことはありますか。

はい	4
いいえ	1

4-2-2. 「はい」の場合、どういった相談内容でしたか。

養育・教育	3
家族関係の葛藤	3
出生届やパスポート申請、国籍	2
在留資格	2
妊娠・出産	2
経済的困窮	2

その他の回答：

- ・ 人身売買
- ・ 養子縁組
- ・ 出国

4-2-3. フィリピン大使館とケース等で問い合わせをしたことはありますか。

はい	2
いいえ	3

4-2-4. 大使館等の外国の機関とのやりとりで難しいと感じることは何ですか。

問い合わせ先を見つけること	3
ホームページ等から支援内容や手続きに関する情報を調べること	2
言語面での対応（大使館員とのやりとりなど）	1
大使館等に提出する書類を準備すること	1

その他の回答：

- ・ 電話が通じにくい
- ・ なかなか領事館等が動いてくれないことが多い

#### 4-3 「実践編：大使館領事部の役割と実践（タイ）」

4-3-1. タイにルーツのある子どもや家族の支援や相談に関わったことはありますか。はいの場合、どういった相談内容でしたか。

はい	1
いいえ	4

「はい」の内容：

- ・ 在留資格について

4-3-2. タイ大使館とケース等で問い合わせをしたことはありますか。

はい	0
いいえ	5

4-3-3. 大使館等の外国の機関とのやりとりで難しいと感じることは何ですか。

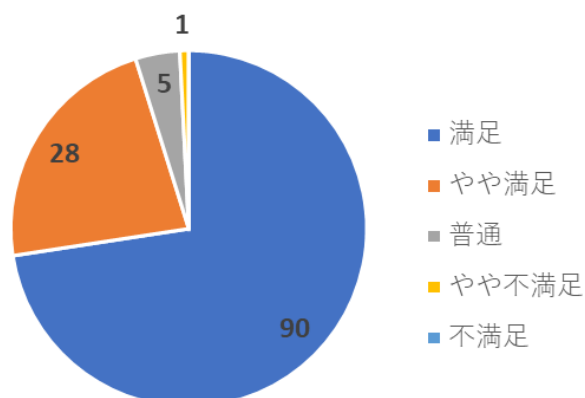
ホームページ等から支援内容や手続きに関する情報を調べること	2
大使館等に提出する書類を準備すること	2
問い合わせ先を見つけること	1
言語面での対応（大使館員とのやりとりなど）	1

その他の回答：

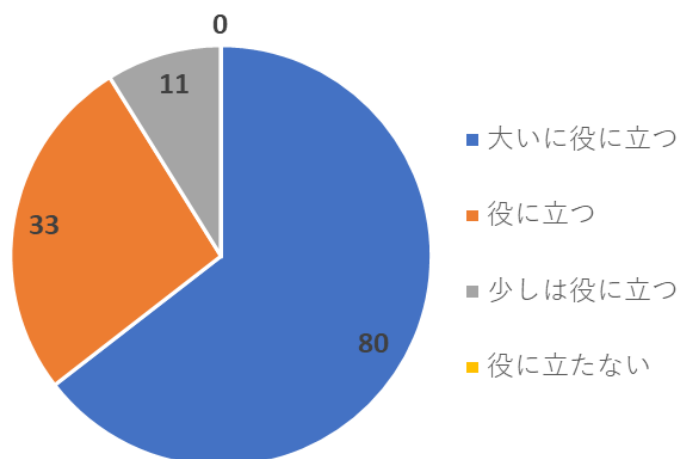
- ・外国の法律や制度を正しく理解した上で手続きするのが難しいこと。
- ・手続きに時間がかかること。
- ・スタッフによって対応が雑だったり、期限が守られないことがあること。

●全4テーマを通して

1. セミナー満足度（セミナーはいかがでしたか？）



## 2. セミナーの役立ち度（あなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？）



## 3. 今後取り上げてほしいテーマ（抜粋）

- ・ 外国にルーツのある児童の就学について。その親、受け入れる側の保育園、幼稚園、学校の在り方、外国人相談窓口相談員が知っておくべきこと
- ・ 教育制度上、外国ルーツの子どもの支援で困難なことや注意点などの事
- ・ 外国世帯に訪問しニーズ把握やサポートにつなげていく際の訪問者が学んでおくこと
- ・ 家庭環境への支援、多文化環境で子育てする保護者支援の事例
- ・ 中学校卒業後のサポートについて。中学校の進路担当教員と進学先等との情報交換が実施されている方や自治体の仕組み
- ・ 子どもへの支援が上手くいっている自治体などの事例
- ・ 外国ルーツのご家庭内で起きがちなお子さんの二次的障にフォーカスして、データや支援できる予防についてなどの共有
- ・ 家族相談や保護者支援に絞った内容
- ・ 特定の宗教に所属する在日外国人（イスラム教徒の方など）のメンタルヘルスケア、自殺対策
- ・ 近年急増しているベトナムやネパール、パキスタンなど、他の国の情報
- ・ 各国の特別養子縁組に関わる法律についての学び
- ・ 外国籍にルーツのある子どもの特別養子縁組、内密出産
- ・ 無国籍のまま成人してしまった人への社会的支援と国籍取得に向けての支援
- ・ 経済的支援を要する際のサポートについて。在留資格がない方の金銭の工面などの実践について具体的な内容
- ・ 渉外戸籍に関する知識、繋げられる機関にはどんな機関があるか、情報交換



- ・ アイデンティティーに関するアプローチについての事（社会的護下にある子どもたちがアイデンティティーで混乱しているだろう時に専門的にできることや、機関の活用など）
- ・ 法律が変わっていくので、同じ内容でも再度開催いただきたい
- ・ 支援者自身の価値観の自己覚知に関する講座